携帯電話使用等にかかる交通事故について
（1当原付以上）

令和元年1月
北海道警察本部交通企画課
令和元年12月1日、道路交通法の一部を改正する法律の施行により、

携帯電話使用等違反が厳罰化されます。

<table>
<thead>
<tr>
<th>携帯電話使用等して、交通の危険を生じさせた者</th>
<th>罰則</th>
<th>3月以下の懲役又は5万円以下の罰金</th>
<th>→</th>
<th>1年以下の懲役又は30万円以下の罰金</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>基礎点数</td>
<td>2点</td>
<td>→ 6点</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>携帯電話使用等（通話、画像注視）</th>
<th>罰則</th>
<th>5万円以下の罰金</th>
<th>→</th>
<th>6月以下の懲役又は10万円以下の罰金</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>反則金</td>
<td>大型車 7千円</td>
<td>→</td>
<td>2万5千円</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>普通車 6千円</td>
<td>→</td>
<td>1万8千円</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>二輪車 6千円</td>
<td>→</td>
<td>1万5千円</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>原付車 5千円</td>
<td>→</td>
<td>1万2千円</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>基礎点数</td>
<td>1点</td>
<td>→ 3点</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>
用語の定義

○ 携帯電話使用等
車両の運転者が携帯電話（スマートフォンを含む）の通話又は画像注視が交通事故の要因となるもの。

○ 通話使用
携帯電話を手で把持して通話などすること。

○ 画像使用
携帯電話の画像表示部位を注視すること及び同目的でボタンを操作すること。
### 1 北海道における交通事故件数と携帯電話使用等に係る交通事故件数の推移

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>H21年</th>
<th>H22年</th>
<th>H23年</th>
<th>H24年</th>
<th>H25年</th>
<th>H26年</th>
<th>H27年</th>
<th>H28年</th>
<th>H29年</th>
<th>H30年</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>画像使用 (件数)</td>
<td>17</td>
<td>11</td>
<td>17</td>
<td>22</td>
<td>32</td>
<td>35</td>
<td>46</td>
<td>45</td>
<td>47</td>
<td>48</td>
</tr>
<tr>
<td>通話使用 (件数)</td>
<td>7</td>
<td>4</td>
<td>5</td>
<td>5</td>
<td>4</td>
<td>3</td>
<td>4</td>
<td>10</td>
<td>8</td>
<td>8</td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td>24</td>
<td>15</td>
<td>22</td>
<td>27</td>
<td>36</td>
<td>38</td>
<td>50</td>
<td>55</td>
<td>55</td>
<td>56</td>
</tr>
<tr>
<td>全人身事故件数</td>
<td>19,503</td>
<td>18,088</td>
<td>16,395</td>
<td>14,973</td>
<td>13,722</td>
<td>12,274</td>
<td>11,123</td>
<td>11,329</td>
<td>10,815</td>
<td>9,931</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<p>| | | | | | | | | | | |</p>
<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
<th></th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>全交通事故</td>
<td>19,503</td>
<td>18,088</td>
<td>16,395</td>
<td>14,973</td>
<td>13,722</td>
<td>12,274</td>
<td>11,123</td>
<td>11,329</td>
<td>10,815</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>画像使用事故</td>
<td>24</td>
<td>15</td>
<td>22</td>
<td>27</td>
<td>36</td>
<td>38</td>
<td>50</td>
<td>55</td>
<td>55</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>通話使用事故</td>
<td>7</td>
<td>4</td>
<td>5</td>
<td>5</td>
<td>4</td>
<td>3</td>
<td>4</td>
<td>10</td>
<td>8</td>
</tr>
</tbody>
</table>

注: 出典: 北海道警察部(2021)
北海道、全国共に平成22年以降、画像使用（件数）が急増した。
3 北海道と全国における携帯電話使用等にかかる交通事故件数の指数推移

北海道・全国 携帯電話使用等事故 指数

※ 指数=H21年の件数を基準（1.00）としたときの各年の数値

平成21年の携帯電話使用等事故件数を基準とした指数推移をみると、画像使用は約3倍となっているが、通話使用については、北海道は横ばい、全国は半減となっている。
4 全国における携帯電話等の個人普及率の推移

画像使用事故
通話使用事故

<table>
<thead>
<tr>
<th>年度</th>
<th>画像使用事故</th>
<th>通話使用事故</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>H21年</td>
<td>24</td>
<td>7</td>
</tr>
<tr>
<td>H22年</td>
<td>17</td>
<td>11</td>
</tr>
<tr>
<td>H23年</td>
<td>22</td>
<td>17</td>
</tr>
<tr>
<td>H24年</td>
<td>27</td>
<td>17</td>
</tr>
</tbody>
</table>

個人普及率

<table>
<thead>
<tr>
<th>年度</th>
<th>スマートフォン</th>
<th>携帯電話・PHS</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>H21年</td>
<td>39.1%</td>
<td>38.9%</td>
</tr>
<tr>
<td>H22年</td>
<td>44.7%</td>
<td>34.6%</td>
</tr>
<tr>
<td>H23年</td>
<td>53.1%</td>
<td>35.1%</td>
</tr>
<tr>
<td>H24年</td>
<td>56.8%</td>
<td>46%</td>
</tr>
<tr>
<td>H25年</td>
<td>60.9%</td>
<td>45%</td>
</tr>
<tr>
<td>H26年</td>
<td>64.7%</td>
<td>47%</td>
</tr>
</tbody>
</table>

n=43,625 n=43,404  n=36,402 n=44,430  n=41,752 n=42,744

総務省「平成30年通信利用動向調査結果」抜粋

個人普及率をみると、スマートフォンの普及率の増加が著しく、携帯電話・PHSの普及率には大きな差がある。
【年別推移のまとめ】
○ 平成22年以降、増加傾向で推移し、平成30年が最多も多い。
○ 特に「画像使用」が平成22年〜27年にかけて急増している。
○ 北海道と全国の発生件数を比較すると、ともに画像使用が大きく占めている。
○ 平成21年を基準とした指数をみると、画像使用は北海道、全国ともに約3倍、通話使用については、北海道は横ばい、全国は半減となっている。
○ 携帯電話（ＰＨＳ）、スマートフォンの個人普及率を見ると携帯電話（ＰＨＳ）は減少傾向であるが、スマートフォンは増加傾向であり、「画像使用」の事故件数の増加と比例している。
携帯電話使用等事故」と「使用なし事故」の特徴・比較（平成26年から平成30年累計）

〇（携帯電話）使用あり ～ 254件
（画像使用～221件、通話使用～33件）
〇（携帯電話）使用なし ～ 53,902件
携帯電話使用時は、20時台以降の夜間帯の割合が「使用なし」に比べて多くなっている。
6 事故類型別、1当通行目的別（構成率）比較

○ 携帯電話使用時の事故類型別は、追突の割合いが「使用なし」と比べて2倍以上
○ 1当通行目的別では、業務通勤、観光ドライブに大きな差は無く、買物の割合が「使用なし」と比べてやや少ない
携帯電話使用時の道路形状別は、直線の割合が「使用なし」と比べて多い
1当行動類型別では、直進中の割合が「使用なし」と比べて1.5倍以上
携帯電話使用時は、40歳代以下の比較的若い運転者の割合が、「使用なし」に比べて多くなっている。
一当危険認知速度別（構成率）比較

○ 携帯電話使用時は、30km/h超から70km/h以下の速度域の割合が「使用なし」に比べて多い。

<table>
<thead>
<tr>
<th>使用あり事故件数</th>
<th>47</th>
<th>44</th>
<th>33</th>
<th>54</th>
<th>40</th>
<th>21</th>
<th>9</th>
<th>1</th>
<th>1</th>
<th>3</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>構 成 率</td>
<td>18.6%</td>
<td>17.4%</td>
<td>13.0%</td>
<td>21.3%</td>
<td>15.8%</td>
<td>8.3%</td>
<td>3.6%</td>
<td>0.4%</td>
<td>0.4%</td>
<td>1.2%</td>
</tr>
</tbody>
</table>

※注「停止中」、「調査不能」を除く。
【参考】自動車が2秒間に進む距離

下の表は、自動車が2秒間に進む距離を示したものです。運転者が画像を見ることにより危険を感じる時間は運転環境により異なりますが、各種の研究報告によれば、2秒以上見ると運転者が危険を感じるという点では一致しています。

時速約60キロで走行した場合、2秒間で約33.3メートル（注）進みます。その間に歩行者が道路を横断したり、前の車が渋滞などで停止していったり事故を起こしてしまう可能性があるのです。

2秒間に進む距離

<table>
<thead>
<tr>
<th>速度（km/h）</th>
<th>距離（m）</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>10</td>
<td>約5.6m</td>
</tr>
<tr>
<td>20</td>
<td>約11.1m</td>
</tr>
<tr>
<td>30</td>
<td>約16.7m</td>
</tr>
<tr>
<td>40</td>
<td>約22.2m</td>
</tr>
<tr>
<td>50</td>
<td>約27.8m</td>
</tr>
<tr>
<td>60</td>
<td>約33.3m</td>
</tr>
</tbody>
</table>

注：秒速（m/s）＝時速（km/h）÷3.6で算出。小数点2位以下四捨五入。

出典：警察庁ホームページ
10 死亡事故率の比較

注：平成26年から平成30年までの1当原付以上の死亡事故率

死亡事故率＝死亡事故÷全人身事故

携帯電話使用時は、「使用なし」に比べて死亡事故率が約2.7倍多くなる。
【特徴比較まとめ】
○ 20時以降の夜間帯の割合が多い
○ 40歳代以下の比較的若い年齢層の割合が多い
○ 直線道路や交差点を直進中の追突の割合が多い
○ 業務中、私用中を問わず発生している
○ 30km/h超から70km/h以下の通常の走行速度域での発生割合が多い

○ 40歳代以下の運転者が、直線道路、直進走行中、交通閑散など、比較的安全と思われる場所や状況で携帯電話を使用していることが推察できる。
○ ひとたび事故が起こると死亡事故になりやすい（死亡事故率が高い）のは、通常の脇見に比べて前方不注意の時間が長く、相手に気づかず、あるいは至近距離まで相手を認知できずに、高い速度のまま衝突することが考えられる。
広報啓発用ポスター

道路交通法改正により
罰則強化

12/1施行
令和元年

ダメ！
反則金が6000円から18000円に引上げです！

運転中のスマホ等を利用に対する罰則強化の内容

<table>
<thead>
<tr>
<th>携帯電話使用等 (保持)</th>
<th>携帯電話使用等 (交通の危険)</th>
</tr>
</thead>
</table>
| **運転中に**
  | 罰則 |
| 改正前 | 5万円以下の罰金 |
| 反則金 | 大型…7千円 |
| 反則金 | 普通…6千円 |
| 反則金 | 二輪…5千円 |
| 原付…5千円 |
| 扣点 | 1点 |
| 改正後 | 6月以下の懲役又は10万円以下の罰金 |
| 反則金 | 大型…2万5千円 |
| 反則金 | 普通…1万8千円 |
| 反則金 | 二輪…1万5千円 |
| 原付…1万2千円 |
| 扣点 | 3点 |

さらに事故を起こした

携帯電話使用等 (交通の危険)

<table>
<thead>
<tr>
<th>携帯電話使用等 (交通の危険)</th>
</tr>
</thead>
</table>
| **運転中に**
  | 罰則 |
| 改正前 | 3月以下の懲役又は5万円以下の罰金 |
| 反則金 | 大型…1万2千円 |
| 反則金 | 普通…9千円 |
| 反則金 | 二輪…7千円 |
| 原付…6千円 |
| 扣点 | 2点 |
| 改正後 | 1年以下の懲役又は30万円以下の罰金 |
| 反則金 | 適用なし |
| 反則金 | (反則金制度の対象の外となり、すべて罰則の対象に) |
| 扣点 | 6点 (免許停止) |

道路交通法の一部が改正されました

運転免許証の再交付について

運転免許を受けた者が公安委員会に運転免許証の再交付を申請することができる場合として、運転免許証の記載事項の変更届出をしたときに等が追加されました。

運転免許証を自主返納した者だけでなく、運転免許を失効した者も運転経歴証明書の交付申請が可能となります。

また、運転経歴証明書の交付を申請できる公安委員会が現在の住所を管理する公安委員会となります。